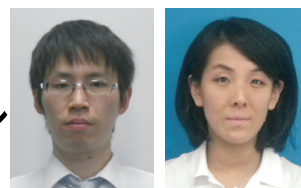


性別・年齢別の違いを考慮した 出国日本人に関する航空需要予測モデル (国総研モデル) の試行

(研究期間：令和4年度～)

空港研究部 空港計画研究室
主任研究官 岩崎 幹平 室長 黒田 優佳



(キーワード) 航空需要予測、日本人出国者数、少子高齢化

2.

社会の生産性と成長力を高める研究

1. 研究の目的と背景

国土技術政策総合研究所では航空需要予測モデル(以下「国総研モデル」という。)の構築・改善を行っており、国総研モデルは交通政策審議会航空分科会第9回基本政策部会で示された需要予測に活用されるなど、施策検討に大きな役割を果たしてきた。

本研究では国総研モデルのうち、日本人出国者数を予測するサブモデルについて、今後の少子高齢化を踏まえ、性別・年齢別の出国率について分析し、これらの違いを考慮したモデルを試行的に検討した。

2. 性別・年齢別の出国率の分析

性別・年齢別の出国率について、出入国在留管理庁及び総務省統計局の公表データを用いて図-1のとおり整理した。その結果、出国率は性別・年齢別に大きく異なることが確認できた。

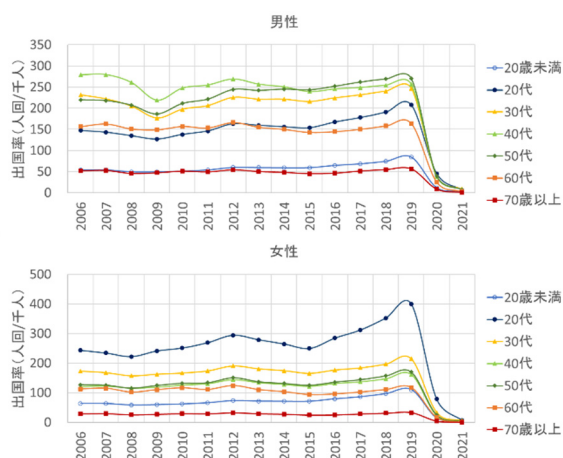


図-1 性別・年齢別の出国率の推移

3. 性別・年齢別の違いを考慮したモデルの再現性について

このため性別・年齢別の違いを考慮したモデルを検討し、当該モデルを用いて出国者数の再現値を算出した。当該再現値と国際航空旅客動態調査のデータを基にした実績値を比較したものを図-2に示す。当該モデルは実績値を概ね再現することができた。

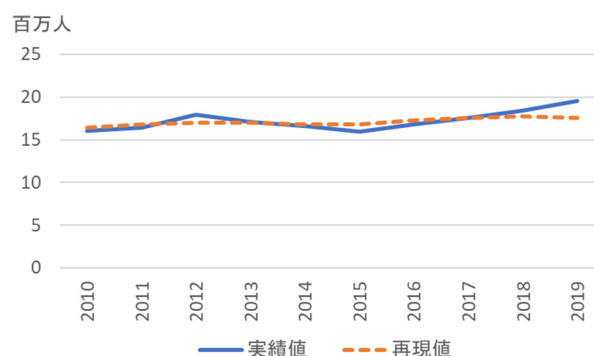


図-2 再現値と実績値の比較

4. 本研究成果の意義と今後の展開

少子高齢化の進行が予想される中、一定程度の再現性を有する性別・年齢別のモデルを検討できたことは意義がある。今後は当該サブモデルが将来予測に活用可能か検証を進め、国総研モデルの予測精度向上を図っていきたい。

参考文献はこちら

1) 交通政策審議会航空分科会第9回基本政策部会 資料 2-1 pp. 20-24
<https://www.mlit.go.jp/common/001013530.pdf>